

朝倉秀之先生は心底教員である

人間総合学部子ども教育学科（幼児児童教育学科） 中島 賢介

先輩教職員の皆様には大変僣越ですが、謝辞を述べさせていただきます。

手元に1990年に発行された『北陸学院100年史』があります。巻末には「教職員一覧」があり、そこには、（朝倉秀之 一九八二・四 一現 大）と記されています。この年から35年もの歳月が経っていることになります。私が赴任した2000年には、先生を始め一覧に掲載されている人もかなり在職していられましたが、この17年間でそのほとんどの方が退職されました。長年北陸学院常務理事としてもお務めになってこられた朝倉先生は、まさに学院の“Walking Dictionary”の一人であるといえます。短期大学では英語学科長や学生部長、大学では副学長としてご活躍されました。

先生は、英米文学がご専門で、17世紀のイングランド詩人・作家のジョン・ダン研究を続けてこられたほか、死生観に関する書籍も翻訳されています。特にダン研究においては、多方面からのアプローチをされてきました。作家論に徹した研究者の一人でいらっしゃいます。

しかし、何にも増して先生の印象は、「心底教員である」ということです。先生と授業の話になると、とても盛り上がります。金森先生を中心にした「授業実践の会」を立ち上げた際には、積極的に参加していただき、授業への思いを共有してくださいました。「授業もできない教員、授業をしたくない教員はやめた方がよい」と熱弁を揮っておられました。礼拝においても腹話術や学生との対話を導入されるなど、常に工夫してこられました。

短期大学に採用された際、面接担当の一人が先生だったこともあり、様々な場面で励ましのお言葉を頂戴しました。勤め始めた頃、大隅恵子学長は、「朝倉先生はね、どんなことがあってもめげない人よ。」と教えてくださいました。確かに、先生にまつわるさまざまなエピソード（これは名誉のため記さないと書けば察しがつく）を知ることとなりますが、先生はそれでもなお、気丈に振舞っておられます。

以前教養学科で文学概論の授業を担当したことがあります。その際、学生には詩歌や小説などの創作を大いに奨励しました。学生に「作品を書いたら印刷して大学祭で配布する」と言うと、数名が作品を寄稿してくれました。その話を朝倉先生にお伝えすると、数日後先生はそっと「これ読んでみて」とプリントを差し出されました。何と先生は、ご自分の作品を私にくださったのです。先日行われた最終講義で「若い頃は小説家を目指していた」というお話をされた際、思わず笑みがこぼれてしまいました。これも内緒のお話の一つでしたが、ご寛恕願えると信じています。

教員を退職されても、何らかの形で教育には携わっていかれるに違いありません。もしかしたら、あの小説の続きを書いてくださるかもしれません。今から楽しみです。

先生の上に主からの大いなる祝福が注がれますよう、心からお祈りいたします。感謝！

履歴・研究業績 (2018. 3 現在)



氏 名：朝倉 秀之

所 属：人間総合学部 子ども教育学科

専門分野：英米文学（特に形而上詩人群）、英語教授法

研究・指導分野：英語学習教授法、キャリアデザイン分野、プロゼミ、ホスピタリティ論

担当科目

〈本学において〉

英語Ⅰ・Ⅱ、プロゼミA、キャリアデザインⅠ・Ⅱ、ホスピタリティ論、
コミュニケーション・イングリッシュ、プラクティカル・イングリッシュ

学 歴

1966年 3 月 東北学院大学文経学部英文学科卒業、
文学士（1962年 4 月～）

1972年 3 月 東北学院大学文学研究科修士課程修
了、文学修士（1970年 4 月～）

1987年 7 月 英国ユニヴァーシティ・カレッジ・
ロンドン客員研究員（～1988年 8 月）

職 歴

1966年 4 月 宮城県宮城学院女子大学教務課勤務
（～1970年 3 月）

1972年 4 月 北海道北星学園女子中学・高等学校
英語科教諭（～1975年 3 月）

1975年 4 月 静岡県株式会社スズキエンタープラ
イゼス入社（～1982年 3 月）

1982年 4 月 北陸学院勤務（現在に至る）

学会等における活動

1982年 7 月 日本英文学会（～2017年）

1982年 7 月 日本シェイクスピア学会（～2017年）

2008年 4 月 日本ホスピタリティ・マネジメント
学会（～2017年）

社会貢献・活動

1984年 6 月 公益社団法人好善社（元ハンセン病
者支援団体）理事（現在に至る）

2004年 7 月 一般財団法人金沢基督教青年会（金
沢 YMCA）理事（2007年 5 月～理事
長）

学内における貢献（主な役職、委員会、その他）

1988年10月 北陸学院理事就任（現在に至る）

1990年 4 月 北陸学院短期大学英語科教
授（～2017年 3 月）

1996年 4 月 北陸学院事務局長代理を兼務
（～1996年 9 月）

1997年 4 月 北陸学院短期大学学生部長
（～2010年 3 月）

2004年 4 月 北陸学院短期大学附属英語研究セン
ター研究員（～2007年 3 月）

2007年4月 北陸学院短期大学附属英語研究センター長（～2008年3月）
 2008年4月 北陸学院大学・短期大学部地域教育開発センター長（～2010年3月）
 2008年4月 北陸学院大学副学長（～2017年3月）
 2008年4月 北陸学院大学短期大学部長を兼務（～2017年3月）
 2014年4月 北陸学院大学短期大学部コミュニティ文化学科長を兼務（～2016年3月）
 2017年4月 北陸学院大学子ども教育学科教授（～2018年3月）

業 績

研究論文

- 1) ジョン・ダンの『第一および第二周年詩』の構造についての一考察、査読あり、東北学院大学文学研究科、1971年3月
 ダンがこの追悼詩を執筆するにあたって何にたよるべきであったのか、というのがこの詩の構造の研究である。ダンはずでに神学を学び、非宗教的な文学も広く読んでいた。すでに『ソングズとソネット』、『諷刺詩』、『ラ・コロナ』、『連祷』を書いており、散文として『自殺論』、『似非殉教者』、『イグナティウス秘密会議』を著していた。第一周年詩は現世蔑視であり、第二周年詩は哲学的かつ霊的慰めの内容が込められている。
- 2) ジョン・ダンと「論争神学」、北陸学院短期大学紀要第14号、1982年12月
 ダンがカトリックであったことは英国国教会にとってまたとない貴重な存在であった。ダンがまだ英国国教会の司祭になる前に匿名でカトリック教会を攻撃する論戦をはったことが知られている。そのことは『イグナティウス秘密会議』の中でも明らかになる。論客としてのダンの研究である。
- 3) ジョージ・ハーバードの詩と『田舎司祭の務め』、北陸学院短期大学紀要第15号、昭和58年12月
 英文学史上では形而上詩人の中でダンに

- 次いで論じられる詩人を取り上げている。ジョージ・ハーバードである。ダンとは地上がった詩人の特質を論じている。
- 4) ダンと逆接の技法、北陸学院短期大学紀要第17号、1985年12月
 1580年から1620年にかけて英国には新しい文学形式が現れた。その影響を受けたとする研究である。
 - 5) ジョン・ダン『自殺論』の構造、北陸学院短期大学紀要第18号、1986年12月
 キリスト教の教えで自殺は罪であり、ダンがあえて自殺論を書いた意図は何であったのかを問う研究である。
 - 6) ジョン・ダン：The Exstasie の構造、北陸学院短期大学紀要第19号、1987年12月
 ダンの恋愛詩の中の1つを取り上げ、その詩に込められた考え方の研究である。
 - 7) “Fusion of Drama and Argument in Donne’s Poetry” I University College London にて査読あり、北陸学院短期大学紀要第20号、1988年12月
 この論文は University College London にて指導を受け、書いたものである。ダンの恋愛詩全体に見られる劇的な言い回しを使って議論が展開していくのが特徴であることを研究したものである。
 - 8) “Fusion of Drama and Argument in Donne’s Poetry” II University College London にて査読あり、北陸学院短期大学紀要第21号、1989年12月
 この論文は7) の続きである。
 - 9) A Research for Hokukriku Gakuin Standard : Situation of English Education in Hokuriku Gakuin and Progress toward the Future. 北陸学院大学研究紀要、2009年3月31日
 北陸学院大学における英語教育の現状を知ることと将来に向けての試みの提案を述べた論文である。
 - 10) 『幼年期に泉鏡花が通った学校の名称——「愛真学校」か「真愛学校」か——』、北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部紀要第9号、2016年3月
 - 11) 『中学英語教育の中での英作文とコミュニ

ケーション能力——ドラマを通して英語の台詞を考える——』、北陸学院大学教職課程第1号、2016年3月

- 12) 『英語授業の事前・事後学習の一考察——他者紹介プレゼンテーションを基盤にして——』、北陸学院大学教職課程第1号、2016年3月
- 13) Tying Theme-based English Materials to the Four Strands ——A Method of Teaching English to University Students in Japan——、北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部紀要第11号、2018年3月

論文翻訳

- 1) ジョン・ダン入門 第10章 その後1990年、北陸学院短期大学紀要第22号、1990年12月
これは『ジョン・ダン——その生涯、精神と技法』(1981年出版、ジョン・ケアリ著)であり、著者は1990年9月10日に翻訳の許可をお願いしたところ、すぐ9月26日付けで許可するという返事をいただき翻訳を開始した。文学部の論争になっていた「理論」と「歴史」の主張の対立を取り上げている。
- 2) ジョン・ダン入門 序文と第1章 背信、北陸学院短期大学紀要第23号、1991年12月
ダンの同時代の人々はジョン・ダンを独創的で比類なき詩人であると認識していた。あまりダン را 快く思っていなかった伝統を大切に する人たちでさえ、ダンの言葉の使い方には舌を巻いていたらしい。ダンの着想の構造を調べ、何がそれを個性的なものにしているのかを知ることが大切であることが述べられている。
- 3) ジョン・ダン入門 第2章 背信の技法、北陸学院短期大学紀要第24号、1992年12月
16世紀後半に英国カトリック教徒が抱いた悲痛な嘆きは現在では忘れ去られているが、ダンの『ソングズとソネッツ』に歌われている状況をカトリック側からの背信を見ると、その特徴は貞節と不実についての際限ない苦悩が浮き彫りとなるのがこの論旨である。
- 4) ジョン・ダン入門 第3章 野心、北陸学院

短期大学紀要第25号、1993年12月

ダンの精神を貫いていたのは、この世で必ず成功するという心意気であった。ダンにとってスペイン遠征はまたとない好機に思えたに違いない。ダン را 道楽者とか、背信者としてとらえるだけではなく、ミッチャムの湿気の多い書斎でもんもんとしている姿も野心という範疇で考える必要があることを述べた論文である。

- 5) ジョン・ダン入門 第4章 野心の技法、北陸学院短期大学紀要第26号、1994年12月

ダンの技法は、詩においても説教においても個性がでて いる。その個性は、ダンの野心の技法に表れている。特殊な圧迫感と複雑さを示すことになることを論じて いる。

- 6) ジョン・ダン入門 第5章 肉体、北陸学院短期大学紀要第27号、1995年12月

ダンが詩を作るのに理論に走って、美的感覚に欠けていると批判されているが、その批判に反駁する論文である。ダンの場合は私たちの目を楽しませることよりも私たちの気持ちを目覚めさせることにある。肉体の機能的な生命と複雑な物質との両方に気づかせようとしているのだというのである。

- 7) ジョン・ダン入門 第6章 変化、北陸学院短期大学紀要第28号、1996年12月

変化することが、16世紀末の人気ある主題であった。物事がますます悪い方向に向かって いるように人々の多くは考えていた。ダン は熱心にその全体を覆う憂鬱を描き出した。変化について語り、初めにいったこととは正反対のことをいうことで終わりとなる技法を使っている。

- 8) ジョン・ダン入門 第7章 死、北陸学院短期大学紀要第29号、1997(平成9)年12月

人間が考える死にはさまざまな種類がある。ダン は死に取り憑かれていたのは事実である。その反動として死を過小評価することで死に打ち勝とうとしたことが分かるという論文である。

9) ジョン・ダン入門 第8章 理性の危機、北陸学院短期大学紀要第30号、1998年12月

ダンの議論は軽くて不明瞭なことがあり、相互に自己矛盾を起こしていて、本物の論客ではないのである。懐疑主義によってダンは理性が発展させた社会制度に疑いの目を向けるようになった。想像力は思想と同義語で使われていて、それを使えば人間は宇宙を征服することができるという。だから理性の危機が無神論者だけでなく偉大な詩人にも影響を及ぼしたのであるとする論文である。

10) ジョン・ダン入門 第9章 想像上の避難所、北陸学院短期大学紀要第31号、1999年12月

結合することと分離することへの過剰な反応は、ダンの性格からも環境からも理解することはできる。その理由はカトリックの迫害の経験に帰すこともできるし、また後年カトリックから分離したこと、この世で出世できなかったことや惨めな結婚生活に帰することもできる。常に両面で苦悩したダンの姿を解明しようとする論文である。

翻訳書

1) 『愛する人を失うとき——暗闇からの生還』ジェラルド・L・シッツァー著 朝倉秀之訳 教文館

本書は破壊的な喪失とそれに伴う私たちの生活に起こる変化を取り上げている。著者が読者に対して経験した交通事故から心にどのような変化が起こり、どう対処する道があるのかを論じている。

その他の実践活動

1) 教職科目の「現代社会の課題と教育」における実践

1998年より行った現代社会の「差別」の問題と学校教育の中で起こっている「いじめ」の問題を取り上げてきた。日本におけるハンセン病の差別、排除、隔離などで苦しめられた元患者さんの証言や作品、また映像から学び、その現状をしり

レポートに書くことによって報告・発表・ディスカッションをする。

2) 英米文学におけるリーディングの方法の実践「英米文学」の中の作品を実際に読むのは、難しい。イギリス・アメリカ文学史の概略を学んだあと、脚色された作品を授業外で読ませ、その作品についての理解度が60%を超えれば次のステップに行く事ができる。18作品中6作以上を読み、60%を超えて理解していれば合格となるという実践である。

講演

1) 「ライ予防法とその後」の講演

日時：2002（平成14）年5月16日

主催：金沢基督教青年会金沢ワイズメンズクラブ例会

場所：金沢ニューグランドホテル

2001年、5月11日熊本地裁で「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟の判決が下された。

国のハンセン病隔離政策は憲法違反であり、国が控訴を断念したことによって決着がついた。

これからの課題は「ハンセン病を正しく理解」し、偏見や差別がなくなるような運動を続けて行くことが大切であるという趣旨の講演である。

2) 「金沢において外国人の子弟の学校設立は可能か」

主催：金沢ジェトロ

場所：金沢ジェトロ事務所

日時：2003年6月9日

一つの調査として、北陸学院に在学している幼稚園児、小学校児童、中学・高校の生徒に占める外国籍の数の現状報告があり、そのあと石川県の現状などが報告され、可能性についての議論があった。

台湾の姉妹校訪問

1) 姉妹校である長栄高級中学校の現状とこれからの方向について

期間：2004年2月12日～2月17日

長栄高級中学校は北陸学院短期大学時代に留学生が来ていたが、最近はなくなり今後の動向などを含めて調査し、意見交換を行った。

木島恒一先生との思い出と謝辞

人間総合学部社会学科 西村 洋一

木島先生は2008年の本学開学より人間総合学部社会福祉学科に赴任し、2012年度からは社会学科教授として心理学関連の科目を中心に教育にあたってこられました。私は木島先生とは本学の開学準備として東京での打ち合わせ（確か青学会館であったと記憶しています）ではじめてお会いして以来、同じ心理学を専門とするものとして様々お世話になってまいりました。その木島先生が2017年度をもって退職されるとのことで、寂寥の念を抱きながら、先生ご自身のこと（私の個人的印象）、思い出などを振り返りたいと思います。

木島先生のことを一言で表現しろと言われましたら、博覧強記という言葉がすぐに思いつきます。私の人生においてもその博覧強記ぶりに心服させられた数少ない一人です。木島先生の知識の広さたるや、ご専門の心理学はもちろんのこと、文学、哲学、ミステリー小説、マンガ、映画、グルメ、落語などの芸能までとにかくありとあらゆることに通じております。しかも、小説の一節を滔々と述べられるなどその記憶の詳細さには、まさに度肝を抜かれるとはこのことだという経験を何度もさせていただきました。

すでにご退職された丸山久美子先生が居られた頃は、丸山先生と木島先生のお茶会（木島先生が丸山先生からの命を受けて淹れるコーヒー）にお呼ばれしてご一緒させていただくことが度々ありました。お二人の話は心理学から哲学、宗教、そしてミステリーなど幅広く、丁丁発止のやりとりが展開され、私などまったく知識の及ばないレベルで、ただただ大人しく聞き入るばかりでした。己の浅学非才を痛感させられる時間であるとともに、これぞ知を探究する場（＝大学）にいるという感覚を味わえたものです。先生こだわりのコーヒーとともにそのような貴い時間や様々な知識をお与えいただきました（あと、マンガもたくさん貸していただきました）、木島先生に深く感謝するものであります。

大学教員として、学生からの人気もとても高く、それは学問に対する厳しさの一方で先生の学生への温かい関わり、そして独特のユーモア感覚が学生の心を掴んでいたものと思います。写真を撮る際などにとられるポーズのセンスは抜群で、学生が先生と写真を取るために群がっている様には何度も出くわしました。先生が本学をご退職されることに多くの学生や卒業生が寂しがらうであろうことは想像に難くありません。

先生のご研究に触れますと、専門領域としましては、健康心理学、社会心理学であり、特にストレスをテーマにされてストレス・コーピング・スキルの尺度の開発やその応用などを中心にご研究を進められております。また、専門的に学ぶ前から有している心理学に関する知識である常識心理学、あるいは心理学に対する誤信念についてもテーマとされ、様々な調査対象に対しどのような誤信念を有しているのかについても研究されてこれらしました。心理学は、マスメディアで取り上げられる機会も比較的多く、ポップとアカデミックの両側面の乖離について、議論されることが多い分野です。大学においては学問としての心理学教育を行うにあたって、常識心理学の問題は考慮すべき課題であります。そのため、先生の深めてこられた研究知見の数々は、私を含め多くの心理学教育に携わるものにとって非常に有用であり、ますますの発展が期待されます。

再び私自身の視点となりますが、木島先生とは同じ時期に本学に赴任し、研究室もお隣ということもあり、先生がご退職され、お姿を拝見する機会が減ってしまうことは、心理的にも物理的にもただただ寂しく思うばかりです。この10年間の御指導御鞭撻本当にありがとうございました。今後とも本学の心理学スタッフ、および社会学科を温かくお見守りいただければ大変うれしく思います。先生の今後のさらなるご活躍、ご健勝を心より祈念しております。

履歴・研究業績 (2018. 3 現在)



氏 名：木島 恒一

所 属：人間総合学部 社会学科

専門分野：心理学

研究・指導分野：ストレス・コーピング論 常識心理学

担当科目

〈本学〉

心理学概論 A 心理学概論 B 心理統計学 I 心理学研究法 I 心理学実験実習 I
心理学実験実習 II 文献講読 II 情報機器演習 A プロゼミ A 専門ゼミ I 専門ゼミ II
(過去に担当した科目：カウンセリング論 臨床心理学 精神保健学 I 精神保健学 II)

〈放送大学〉

心理学実験 3

学 歴

1976年 3 月	早稲田大学第一文学部心理学専修卒業 (文学士)	1985年 4 月	早稲田大学大学院文学研究科研究生 (至1988年 3 月)
1976年 4 月	早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻博士前期課程入学	1989年12月	放送大学非常勤講師 (現在に至る)
1979年 3 月	早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻博士前期課程修了 (文学修士)	1990年 4 月	服部栄養専門学校栄養士科非常勤講師 (至2002年 3 月)
1979年 4 月	早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程入学	1991年 4 月	神奈川大学外国語学部非常勤講師 (至2007年 3 月)
1985年 3 月	早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程単位取得満期退学	1991年 4 月	東洋大学社会学部非常勤講師 (至2008年 3 月)
		1995年 4 月	豊四季専門学校 (現江戸川大学総合福祉専門学校) (至1998年 3 月)

職 歴

1978年11月	松井病院非常勤臨床心理士 (至1994年 8 月)	2002年 4 月	桜美林大学文学部非常勤講師 (至2008年 3 月)
1979年 9 月	文教大学人間科学部非常勤講師 (至2008年 3 月)	2005年 3 月	文教大学付属生活科学研究所客員研究員 (現在に至る)
		2008年 4 月	北陸学院大学人間総合学部社会福祉学科准教授

2012年 4 月 北陸学院大学人間総合学部社会学科
教授

学会等における活動・役職歴

- 1) 1978年 日本心身医学会会員
- 2) 1979年 日本心理学会会員
- 3) 1983年 日本公衆衛生学会会員
- 4) 1984年 日本グループ・ダイナミックス学会
会員
- 5) 1987年 日本社会心理学会会員
- 6) 1988年 日本健康心理学会会員
- 7) 1990年 産業・組織心理学会会員
- 8) 1992年 1993 International Congress of Health
Psychology 準備会会員 (4年12月
～平成5年7月まで)
- 9) 1998年 日本応用心理学会会員
- 10) 2009年 日本行動計量学会会員

業 績

著 書

共著

- 1) 木村 裕 (編) (1994) 『はじめてまな
ぶ心理学』 ソフィア
担当部分：第9章「人が出会う時：社会的行
動」(pp.173-190)
- 2) 藤村 保 (監修) (1994) 『こころの問
題事典』 平凡社
担当医部分：「自殺の心理」(pp.70-71)、「念
力・超能力」(p.317)、「心身症」(p.334)、「恐
怖症」(p.335)、「精神安定剤」(p.354)、「向
精神薬」(p.354)、「心療内科」(p.358)、
「TAT」(p.382)、「文章完成法(SCT)」(p.383)、
「HTP」(p.383)
- 3) 木村 裕 (編) (2000) 『はじめてまな
ぶ心理学(第二版)』 アートアンドブレイン
担当部分：第10章「社会的行動」(pp.129-
141)、第13章「数量化の考え方」(pp.174-
192)
- 4) 藤永 保 (監修) (2006) 『こころの問
題事典(新版)』 平凡社
担当部分：「超能力」(p.298)、「心身症」
(p.317)、「恐怖症」(p.319)、「自殺の心理」
(pp.336-337)、「向精神薬」(p.344)、「心療

内科」(p.348)、「TAT」(p.383)、「文章完成
法(SCT)」(p.384)、「HTP」(p.385)

- 5) 丸山久美子 (編) (2008) 『21世紀の心
の処方学—医学・看護学・心理学からの提言
と実践—』 アートアンドブレイン
担当部分：第13章「健康過敏症候群—健康願
望を肥大化させるもの—」(pp.183-194)
- 6) 丸山久美子 (編) (2010) 『今日の生涯
発達心理学—自分の人生を設計する—』
アートアンドブレイン
担当部分：第9章「燃え尽き症候群と自殺念
慮」(pp.117-129)
- 7) 木島恒一・野瀬 出・山下雅子 (共編)
(2013) 『誤解から学ぶ心理学』 勁草書房
執筆した担当部分：「はじめに」(i-iii)、
Q1-5 (pp.10-11)、Q1-6 (pp.12-13)、
第9章社会的行動—基礎知識 (pp.180-181)、
Q9-3 (pp.186-187)、Q9-4 (pp.188-
189)、Q9-6 (pp.192-193)、Q10-7 (pp.214
-215)

研究論文 (査読あり)

- 1) 木島恒一・笠原敏雄・長岡由憲・日野 厚
(1983) 慢性疾患患者の心理面の基礎的研
究 (I) : 心理検査からみた一般的特徴 心
身医学, 23 (5), 421-428.
- 2) 木島恒一 (1989) 慢性疾患患者の医療機
会の選択要因：食事療法に特徴をもつ内科の
事例をとおしての検討 健康心理学研究, 2
(2), 23-27.
- 3) 松本芳之・木島恒一 (2002) 就職活動に
おける自己呈示の戦略目標 実験社会心理学
研究, 41 (2), 111-123.
- 4) 木島恒一 (2008) ストレス・コーピング
・スキル尺度の作成：その信頼性・妥当性の
検討 心身医学, 48 (8), 731-740.
- 5) Kijima, T., Nose, I., & Yamashita, M. (2012)
Misconceptions about modern psychology among
Japanese first-year students. Japanese Journal of
Applied Psychology, 38 (国際応心英文特集
号), 1-7.

研究論文（査読なし）

- 1) 木島恒一（1979） Personal Constructs の実験的研究：ステレオタイプ性の Personal Constructs とその変動性（修士論文） 早稲田大学に提出
- 2) 飛山ムメ・若松厚子・長岡由憲・日野 厚・木島恒一（1981） 絶食療法施行中の自覚症状の変化 絶食研究, 第7・8号, 41-51.
- 3) 長岡由憲・木島恒一・日野 厚（1981）生態学的栄養学に基づく食事療法と絶食療法による最近の臨床経験：器質的大腸疾患を認めなかった常習性便秘患者での食事調査・心理検査成績及び臨床経過について 生態学的栄養学研究, 第5号, 21-42.
- 4) 木島恒一（1997）保健行動と自己尺度との関連性に関する基礎的分析 江戸川学園人間科学研究所紀要, 第13号, 151-184.
- 5) 松本芳之・木島恒一・井腰圭介（2001）一人暮らし老人における会話相手の役割 早稲田大学教育学部学術研究（教育心理学編）, 第49号, 27-33.
- 6) 丹治哲雄・木島恒一・山下雅子・飯澤未来（2003）大学新入生の持つ心理学知識Ⅰ：人間科学部人間科学科新入生の場合 文教大学付属教育研究所紀要, 第12号, 85-92.
- 7) 岡部康成・木島恒一・佐藤 徳・山下雅子・丹治哲雄（2004）紙筆版潜在連合テストの妥当性の検討：大学生の超能力信奉傾向を題材として 文教大学人間科学部人間科学研究, 第26号, 145-15.
- 8) 丹治哲雄・山下雅子・木島恒一・飯澤未来（2005）大学新入生の持つ心理学知識Ⅱ：人間科学部人間科学科新入生と理工学部新入生との比較 文教大学付属教育研究所紀要, 第14号, 95-103.
- 9) 丹治哲雄・木島恒一・山下雅子・野瀬 出・岡部康成・市原 信（2006）大学新入生の持つ心理学知識Ⅲ：人間科学部新入生と法学部・経済学部新入生との比較 文教大学付属教育研究所紀要, 第15号, 101-110.
- 10) 木島恒一（2009）成人期前期以降におけるコーピング・スキルの発達的变化 文教大学生生活科学研究, 第31集, 49-55.
- 11) 木島恒一（2010）変化に対する潜在的態度とコーピング・スキル 文教大学生生活科学研究, 第32集, 49-55.
- 12) 木島恒一・野瀬 出・山下雅子（2011）大学新入生の心理学知識—北陸学院大学人間総合学部の場合—北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要, 第3号, 123-130.
- 13) 木島恒一（2014）高校生の心理学知識 北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要, 第6号, 109-116.
- 14) 木島恒一（2015）神経症患者におけるストレス・コーピング・スキル 文教大学生生活科学研究所紀要生活科学研究, 第37集, 107-114.
- 15) 木島恒一・山下雅子・野瀬 出（2016）社会人学生の心理学知識と誤信念 北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要, 第8号, 151-158.
- 16) 木島恒一（2016）神経症患者におけるコーピング・スキルの変化 文教大学生生活科学研究所紀要生活科学研究, 第38集, 107-113.
- 17) 木島恒一（2017）コーピング・スキルが精神的健康に与える影響 文教大学生生活科学研究所紀要生活科学研究, 第39集, 111-116.
- 18) 木島恒一（2018）コーピング・スキルが心理的ストレス反応に及ぼす効果 文教大学生生活科学研究所紀要生活科学研究, 第40集, 印刷中.

研究報告書

- 1) 木島恒一（1992）「対人関係に対する認知と慢性疾患：摂食障害の2症例をととしての検討」平成3年度文部省科学研究費補助金総合研究A研究成果報告書「都市化社会の進展に伴う生活構造の変容と“きずな”のダイナミックス」, 173-184.

その他の著作

- 1) 木島恒一・橋本仁司（1980）説得・宣伝におけるコミュニケーターの魅力 「サイコロジー」, 第1巻 第6号, 50-54.
- 2) 大木桃代・菅野純・木島恒一・沢田七郎・鈴木晶夫・野田 満・細田一秋 教育相談キー

ワード集「教育相談研究」, 第60号, 26-43.

- 3) 木島恒一 (2017) 『源氏物語』は誰に向けて書かれたか—『源氏物語』第一部成立過程に関するひとつの仮説—「石川自治と教育」, 703号, 38-47.

研究発表

- 1) 木島恒一・笠原敏雄・日野 厚 (1979)
老年患者の心身愁訴と生態学的栄養学に基づく食生活指導：主観的愁訴とその変動量からみた高血圧 日本心身医学会第20回総会
- 2) 木島恒一・林 春男 (1979) **Personal Constructs** の実験的研究：ステレオタイプ性の **Personal Constructs** とその変動性 日本心理学会第43回大会
- 3) 木島恒一・笠原敏雄・長岡由憲・日野 厚 (1980) 心理検査からみた皮膚疾患患者：慢性腎炎患者との比較を通しての一検討 日本心身医学会第21回総会
- 4) 木島恒一 (1980) **Personal Constructs** による対人認知の実験的研究：ステレオタイプの認知と予言行動 (**Predictive Behavior**) 日本心理学会第44回大会
- 5) 木島恒一・笠原敏雄・長岡由憲・日野 厚 (1981) 心理検査からみた慢性腎炎患者：慢性腎炎患者における心理的問題の存在の可能性についての一検討 日本心身医学会第22回総会
- 6) 石垣土志子・長岡由憲・日野 厚・木島恒一 (1981) 肥満者での絶食療法施行前後での心理検査成績 第2回肥満学会
- 7) 木島恒一・笠原敏雄・長岡由憲・日野 厚 (1982) 慢性疾患患者の心理面の基礎的研究 (I)：心理検査からみた一般的特徴 日本心身医学会第23回総会
- 8) 木島恒一 (1982) 対人認知と人格特性 日本心理学会第46回大会
- 9) 白井泰子・木島恒一 (1982) ステレオタイプの判断の認知的基礎 (III)：ラベリング効果の分析 日本心理学会第46回大会
- 10) 長岡由憲・木島恒一・日野 厚 (1983) 常習性便秘の食事傾向と当科の食事療法の経験 日本公衆衛生学会第42回総会
- 11) 木島恒一・長岡由憲・日野 厚 (1984) 慢性疾患患者の心理面の基礎的研究 (II)：健常者との因子構造の比較 日本心身医学会第25回総会
- 12) 木島恒一・長岡由憲・日野 厚 (1984) 慢性疾患患者の心理面の基礎的研究 (III)：判別分析による健常者との比較 日本心身医学会第25回総会
- 13) 木島恒一・白井泰子 (1984) ステレオタイプの判断の認知的基礎 (IV) 日本グループ・ダイナミックス学会第32回大会
- 14) 木島恒一 (1984) 対人認知におけるパーソナリティ判断：認知構造の緊密度との関係からの一検討 日本心理学会第48回大会
- 15) 木島恒一・長岡由憲・日野 厚 (1985) 慢性疾患患者の心理面の基礎的研究 (IV)：重判別分析による8慢性疾患の比較検討 日本心身医学会第26回総会
- 16) 木島恒一 (1985) 対人認知構造と心理検査成績に関する基礎的検討 日本心身医学会第26回総会
- 17) 木島恒一・白井泰子 (1985) ステレオタイプの判断の認知的基礎 (V) 日本グループ・ダイナミックス学会第33回大会
- 18) 木島恒一・長岡由憲・日野 厚 (1986) 対人認知構造と心理検査成績に関する基礎的検討 (II)：neurotic 傾向の強い大学生の対人認知構造 日本心身医学会第27回総会
- 19) 木島恒一・長岡由憲・日野 厚 (1986) 慢性疾患の **Intractability** についての心理学的モデル (I) 日本心身医学会第27回総会
- 20) 木島恒一・長岡由憲・日野 厚 (1986) 慢性疾患の **Intractability** についての心理学的モデル (II)：パス解析による実証的検討 日本心身医学会第27回総会
- 21) 梶本雅俊・鈴木妙子・光山玲子・福富和夫・飛山ムメ・長岡由憲・木島恒一・日野 厚・八代悠紀子・吉川 泉・柚木 斎 (1986) 栄養の偏りを指標とした栄養性疾患発生の予測 (7)：摂取食品数、栄養量の相互関連及び偏食指数の評価について 日本公衆衛生学会第45回総会
- 22) 木島恒一 (1986) 対人認知におけるパー

- ソナリティ判断：被験者のパーソナリティ特徴との関係からの一検討 日本心理学会第50回大会
- 23) 木島恒一・白井泰子 (1986) ステレオタイプの判断に及ぼす予断の効果 (I) 日本グループ・ダイナミックス学会第34回大会
- 24) 白井泰子・木島恒一 (1986) ステレオタイプの判断に及ぼす予断の効果 (II) 日本グループ・ダイナミックス学会第34回大会
- 25) 木島恒一・長岡由憲・日野 厚 (1987) 対人認知構造と心理検査成績に関する基礎的検討 (III)：認知構造の分化度との関連からの検討 日本心身医学会第28回総会
- 26) 木島恒一・長岡由憲・日野 厚 (1987) 慢性疾患患者における肥満の問題 (I)：肥満性についての自己認知との関係からの検討 日本心身医学会第28回総会
- 27) 木島恒一 (1987) 対人認知におけるパーソナリティ判断：被験者における自己像との関係からの一検討 日本グループ・ダイナミックス学会第35回大会
- 28) 木島恒一・長岡由憲・日野 厚 (1988) 対人認知構造と心理検査成績に関する基礎的検討 (IV)：自己像との関連からの検討 日本心身医学会第29回総会
- 29) 木島恒一 (1988) 慢性疾患患者の医療会の選択要因：ある食養内科の事例をととしての検討 日本健康心理学会第1回大会
- 30) 木島恒一・長岡由憲・日野 厚 (1989) 一肥満症患者における対人認知構造と対人関係への気づき 日本心身医学会第30回総会
- 31) 木島恒一 (1989) 慢性疾患患者における医療機会の選択要因 (2)：ある内科における時間的推移についての検討 日本健康心理学会第2回大会
- 32) 木島恒一・長岡由憲 (1990) 心理学的特徴からの肥満者の分類 日本心身医学会第31回総会
- 33) 木島恒一 (1990) 対人認知構造の分化度と心理検査成績に関する検討 日本健康心理学会第3回大会
- 34) 木島恒一・長岡由憲 (1991) 対人恐怖を伴う一過食症患者の対人認知構造 日本心身医学会第32回総会
- 35) 木島恒一 (1991) 対人認知構造における Self-identity と心理検査成績に関する検討 日本健康心理学会第4回大会
- 36) 木島恒一・長岡由憲 (1992) 慢性疾患患者における Irrational Beliefs の検討 日本心身医学会第33回総会
- 37) 神原直幸・木島恒一 (1992) ステレオタイプの判断に及ぼす集団サイズの効果 (1) 日本心理学会第56回大会
- 38) 木島恒一 (1992) 対人認知構造における自己の独自性の認知と心理検査成績に関する検討 日本健康心理学会第5回大会
- 39) 木島恒一・長岡由憲 (1993) 対人認知構造における「現実の自己」と「理想の自己」の一致度の低い大学生の Self-identity System 日本心身医学会第34回総会
- 40) Kijima, T. (1993) Self-identity in the construction system and psychological tests. 1993 International Congress of Health Psychology
- 41) 木島恒一 (1993) 一肥満症患者における対人認知と身体愁訴：Self-identity system との関連からの検討 日本健康心理学会第6回大会
- 42) 神原直幸・木島恒一 (1993) ステレオタイプの判断に及ぼす集団サイズの効果 (2) 日本心理学会第57回大会
- 43) 木島恒一・音山若穂 (1994) 社会的ストレスに対する認知の構造の基礎的分析 日本心理学会第58回大会
- 44) 木島恒一 (1994) 社会的ストレスに対する個人的認知様式と認知構造に関する研究 日本健康心理学会第7回大会
- 45) 木島恒一 (1995) ストレス認知次元とパーソナリティ特徴からみたストレス対処様式 日本健康心理学会第8回大会
- 46) 須永範明・木島恒一 (1996) 対処行動質問紙 (COPE) 日本語版作成の試み 日本健康心理学会第9回大会
- 47) 木島恒一 (1996) パーソナリティ特性としてのストレス・コーピング特徴とパーソナリティ尺度との関連に関する基礎的研究 日本健康心理学会第9回大会

- 48) 木島恒一・須永範明 (1997) 失恋に対する対処行動と対処特性：対処行動質問紙 (COPE) に関する基礎的研究 (1) 日本健康心理学会第10回大会
- 49) 須永範明・木島恒一 (1997) 対処特性と特定状況での対処：対処行動質問紙 (COPE) に関する基礎的研究 (2) 日本健康心理学会第10回大会
- 50) 木島恒一・成田 猛・久米 稔 (1997) ストレス・コーピング・スキル尺度 (SCSS) 作成の試み 日本心理学会第61回大会
- 51) 須永範明・木島恒一 (1998) 対処行動とストレス反応との因果的関連 日本健康心理学会第11回大会
- 52) 木島恒一・成田 猛・久米 稔 (1998) 社会人を対象としたストレス・コーピング・スキル尺度 (SCSS) 作成の試み 日本心理学会第62回大会
- 53) 木島恒一・成田 猛・久米 稔 (1999) ストレス・コーピング・スキル尺度 (SCSS) の妥当性の検討：YG 性格検査およびUPI との関連からの検討 日本心理学会第63回大会
- 54) 木島恒一・須永範明 (1999) 失恋ストレスに対する有効対処とパーソナリティ特徴に関する検討 日本健康心理学会第12回大会
- 55) 須永範明・木島恒一 (2000) 対処行動質問紙 (COPE) に関する基礎的研究 (3)：社会人集団における対処特性 日本健康心理学会第13回大会
- 56) 木島恒一・成田 猛・久米 稔 (2000) 大学生版ストレス・コーピング・スキル尺度 (SCSS) の妥当性の検討：構成概念妥当性を中心に 日本心理学会第64回大会
- 57) 木島恒一・成田 猛・久米 稔 (2001) 神経症患者におけるストレス・コーピング・スキル 日本心理学会第65回大会
- 58) 木島恒一・成田 猛・須永範明・久米 稔 (2002) 神経症患者におけるストレス対処特性の検討 日本心理学会第66回大会
- 59) 木島恒一・成田 猛・久米 稔 (2003) ストレス・コーピング・スキル尺度 (SCSS) の尺度プロフィールに関する研究 日本心理学会第67回大会
- 60) 木島恒一 (2004) 変化に対する潜在的態度とコーピング・スキル 日本健康心理学会第17回大会
- 61) 木島恒一・成田 猛・久米 稔 (2004) 神経症患者におけるコーピング・スキルの変化 日本心理学会第68回大会
- 62) 木島恒一・丹治哲雄・山下雅子 (2005) 「心理学」履修前における大学生の心理学知識 日本心理学会第69回大会
- 63) 木島恒一・野瀬 出・山下雅子 (2008) 大学新入生の「心理学」知識—自分の知識に対する確信度と知識の正誤— 日本心理学会第72回大会
- 64) 木島恒一・成田 猛 (2009) ストレス・コーピング・スキルの概念と測定 (シンポジウムでの話題提供) 日本行動計量学会第37回大会
- 65) 木島恒一・成田 猛 (2009) 生涯発達から見たコーピング・スキルの変化—青年期後期以降を中心に— 日本心理学会第73回大会
- 66) Kijima, T., Nose, I., & Yamashita, M. (2010) Misconceptions about modern psychology among Japanese first-year university students. 27th International Congress of Applied Psychology.
- 67) 山下雅子・木島恒一・野瀬 出 (2010) 大学新入生の持つ心理学知識—正答率の経年変化— 日本心理学会第74回大会
- 68) 野瀬 出・山下雅子・木島恒一 (2011) 大学生の持つ誤った心理学知識—正答率の学年間比較— 日本心理学会第75回大会
- 69) 木島恒一・野瀬 出・山下雅子 (2012) 高校生の持つ心理学知識—大学新入生との比較をととしての検討— 日本心理学会第76回大会
- 70) 山下雅子・木島恒一・野瀬 出 (2013) 「常識心理学クイズ」から見る大学新入生の持つ心理学知識 日本応用心理学会第80回大会
- 71) 野瀬 出・山下雅子・木島恒一 (2013) 大学新入生の持つ心理学知識—心理学科目受講前と受講後の比較— 日本心理学会第77回大会
- 72) 木島恒一 (2013) 大学新入生の心理学知識 (シンポジウム「教養課程における心理学」

一般社会や他学問からの誤解や誤信念の問題を考える」での話題提供) 日本心理学会第77回大会

- 73) 木島恒一・山下雅子 (2014) 社会人学生の持つ心理学知識—大学新入生との比較をとおしての検討— 日本応用心理学会第81回大会
- 74) 木島恒一 (2016) コーピング・スキルが精神的健康に与える影響 日本応用心理学会第83回大会
- 75) 木島恒一 (2017) コーピング・スキルが心理的ストレス反応に及ぼす効果 日本応用心理学会第84回大会

研究助成・科研費等

- 1) 北陸学院大学及び北陸学院大学短期大学部共同研究費2009－2013年度 「大学生の心理学知識とその misconceptions」

村上吉春先生への謝辞

食物栄養学科 田中 弘美

村上吉春先生は、2018年3月をもって退任なされます。

村上先生は、2011年3月、石川県立金沢西高等学校の校長をご退職された後、1年間大野からくり記念館館長職を務め、2012年4月に北陸学院短期大学部食物栄養学科教授として着任されました。食物栄養学科では、栄養教諭二種免許取得をめざす学生のために6年間ご尽力いただきました。栄養教諭制度は、平成17年度から施行され、栄養教諭が食に関する指導（学校における食育）の推進に中核的な役割を担うものであり、栄養教育実習においても、給食時間の指導のほか研究授業が課せられています。村上先生は、教職科目である「教育者論」、「生徒・進路指導論」、「教育実践演習」、「栄養教育実習指導」、「栄養教育実習」をご担当され、栄養教諭二種免許取得を希望する学生に『教育』について幅広く指導くださいました。

また、食物栄養学科独自の初年次教育の科目としての「学びの基礎」をご担当いただき、科目選択と資格取得の関係をはじめ、大学での授業の聴き方と心構え、ノートのとり方やレポートの書き方、卒業後のライフプランをふまえた2年間の大学生生活プラン設計等についてご指導いただきました。オムニバス科目であるため、全体説明をしていただき、その後のグループ指導の内容も立案していただきました。そのほか、教員免許状更新講習やREDeCセミナー、ウォーミングアップ学習などについても村上先生の緻密な計画・立案のおかげでスムーズに進められたことは多々あり、本当に感謝しております。

私は、村上先生とオムニバス科目の「栄養教育実習指導」と「栄養教育実習」を担当させていただきました。村上先生には、学生が栄養教育実習を円滑に実施できるように教育実習生の心構えはもちろんですが、学習指導案作成の基本について詳細な資料を作成していただき、授業のねらいから授業の構成、教材の作成など教育実習に必須の基本的な知識・技術の習得にご尽力いただきました。学生一人ひとりに対して、栄養教育実習が始まる直前には必ず45分の模擬授業の時間を設けて、学生が時間の感覚を身につけ、自らタイムマネジメントができるように指導されました。本番の研究授業では実習生のためにビデオ撮りをされ、次年度の指導にも活かすなど様々な面で学生を思う気持ちが伝わってきました。村上先生の授業は、レポート課題が多いことで悲鳴をあげる学生もありましたが、栄養教育実習報告会時には、実習生の表情は達成感に満ち溢れており、書く力を中心に考える力やプレゼンテーション力なども確実に身につけていることに感動しました。この6年間、私自身も大変貴重な勉強の機会が与えられたことに感謝申し上げます。

研究授業の参観に向かう道中では、プライベートな話を聞くこともあり、奥様と人生を楽しんでいらっしゃる印象を受けたこともしばしばありました。毎年、村上先生のご自宅で収穫された柿をいただいたり、昨年は、洋ランの鉢植えをいただき父にプレゼントしました。村上先生が今後も新たな挑戦を続け、自然と触れ合いながら健康で充実した人生を送られることをお祈りしております。

学外での活動も多数あり、ここで全てのことを述べることはできませんが、残された私たちは、村上先生の何事にも誠意を持って計画的に実践する姿勢を継承し、学生指導に活かしていく所存です。

履歴・研究業績 (2018. 3 現在)



氏 名：村上 吉春

所 属：短期大学部 食物栄養学科

専門分野：教育学（教育実践）

研究・指導分野：教職基礎、教育実習、初年次教育

担当科目

〈本学において〉

教育者論、教育課程論、教育方法論、学びの基礎、総合教養（オムニバス）、栄養教育実習指導、
栄養教育実習、教職実践演習、栄養士への道

〈他大学において〉

シティカレッジ 「食生活と健康」（オムニバス）

金沢大学 教員採用試験対策講座講師

学 歴

1975年 3 月 岡山大学大学院農学研究科園芸学専攻
攻修士課程終了（農学修士）

2001年 4 月 石川県教育委員会学校指導課課長補佐（2003年 3 月迄）

2003年 4 月 石川県立七尾農業高等学校校長
（2004年 3 月迄）

職 歴

1975年 4 月 島根県立出雲農林高等学校教諭
（1979年 3 月迄）

2004年 4 月 石川県立七尾農業高等学校校長・石川県立七尾東雲高等学校校長
（2006年 3 月迄）

1979年 4 月 石川県立七尾農業高等学校教諭
（1986年 3 月迄）

2006年 4 月 石川県立七尾東雲高等学校校長
（2007年 3 月迄）

1986年 4 月 石川県立松任農業高等学校教諭
（1992年 3 月迄）

2007年 4 月 石川県立金沢伏見高等学校校長
（2009年 3 月迄）

1992年 4 月 石川県立津幡高等学校教諭
（1993年 3 月迄）

2009年 4 月 石川県立金沢西高等学校校長
（2011年 3 月迄）

1993年 4 月 石川県教育委員会学校指導課指導主事（2001年 3 月迄兼任）

2011年 4 月 公益財団法人大野からくり記念館館長（2012年 3 月迄）

2000年 4 月 石川県教育委員会庶務課主幹
（2001年 3 月迄）

2012年 4 月 学校法人北陸学院大学短期大学部食物栄養学科教授（2018年 3 月）

学会等における活動・役職歴、社会活動

- 1) 石川県関係
石川県教育委員会 石川師範塾 非常勤講師
県民交流課 花いっぱいコンクール審査員
- 2) 金沢市関係
緑と花の課 緑の相談ひろば講師
- 3) その他
石川花の会（ボランティア団体）副会長
公益法人大野からくり記念館顧問
金沢市高砂大学校 OB 花樹会講師
教育系学会参加 初年次教育学会（2012～）

業 績

研究論文

- 1) 栄養教諭養成のための現行教育課程と新教育課程～新カリキュラムにおける課題改善の取り組み～（2016. 3. 18） 北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部「教職課程研究第1号」 P. 131～136
- 2) 食物栄養学科学生のレポート作成能力の育成について～初年次教育に位置尽く新科目「学びの基礎」の実践～（2017. 2. 28） 北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部「教職課程研究第3号」 P. 147～152
- 3) 食物栄養学科「教職実践演習」の履修カルテの入力結果からみた学生の実践的指導力の定着状況（2018. 1. 31） 北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部「教職課程研究第5号」

その他の著作

- 1) 高校教育改革と農業教育（1993. 3. 31） 石川県高教研農業部会 平成5年度研究集録 P. 4～5
- 2) 学科改編の先にあるもの～農業高校の活性化に向けて～（1994. 3. 31） 石川県高教研農業部会 平成6年度研究集録 P. 4～5
- 3) 生徒急減期の農業教育を支える力（1995. 3. 31） 石川県高教研農業部会 平成7年度研究集録 P. 4～5
- 4) 先生が輝いて生徒が光る（1996. 3. 31） 石川県高教研農業部会 平成8年度研究集録 P. 4～5
- 5) 今、あらためて学習指導要領「農業編」

- （1997. 3. 31） 石川県高教研農業部会 平成9年度研究集録 P. 4～5
- 6) 次期の高等学校学習指導要領の告示を控えて（1988. 3. 31） 石川県高教研農業部会 平成10年度研究集録 P. 4～5
- 7) 農業教育の正念場（1999. 3. 31） 石川県高教研農業部会 平成11年度研究集録 P. 4～5
- 8) 県民サービスとしての教育統計情報等の公開（2000. 7） 教育と情報 No. 508 文部省大臣官房調査統計企画課編集
- 9) 21世紀を「農業の世紀」にするために（2001. 3. 31） 石川県高教研農業部会 平成12年度研究集録 P. 4～5
- 10) 高等学校教育課程編成の手引き（2001. 11） 石川県教育委員会編（監修）
- 11) 変化への適応と求められる確かな成果（2002. 3. 31） 石川県高教研農業部会 平成13年度研究集録 P. 4～5
- 12) 情報公開、自己評価とシラバスの作成（2003. 3. 31） 石川県高教研農業部会 平成14年度研究集録 P. 4～5
- 13) 人生の大きな選択をしようとする皆さんへ（2003. 5） 七尾農業高校進路の手引き（平成15年度版）
- 14) 七尾東雲高校開校に向けて（2004. 6. 3） 石川県高等学校長協会報第207号
- 15) 七尾東雲高校における農業教育の展開（2004. 3. 31） 石川県高教研農業部会 平成15年度研究集録 P. 4～5
- 16) 成果が得られる研修のための事前指導の充実（2004. 7） 第6回農業を学ぶ高校生の海外派遣研修報告書
- 17) ひとりひとりが幸せな人生を送るために（2004. 5） 七尾農業高校進路の手引き（平成16年度版）
- 18) 七尾東雲高校の歴史の始まり（2005. 3. 1） 七尾東雲高校 PTA 新聞 七尾東雲だより第1号（創刊号） P. 1
- 19) 七尾農業高校における農業教育のこの一年（2005. 3. 31） 石川県高教研農業部会 平成16年度研究集録 P. 8～9
- 20) 同じ屋根の下でのこの1年（2005. 3） 七

- 尾農業高校 PTA 新聞 七農だより第35号
- 21) 努力は運命の架け橋 (2005. 3.24) 七尾東雲高校生徒会誌 東雲第1号 P. 4～5
 - 22) 人は船、身につけた力は羅針盤 (2005. 3) 七尾農業高校生徒会誌 緑陰第53号 P. 4
 - 23) 生徒は学校で、こんなことをしています (2005. 7.20) 七尾東雲高校 PTA 新聞 七尾東雲だより第2号 P. 1
 - 24) 七農生たちを誉めてやってください (2006. 1.31) 七尾農業高校同窓会報 七農同窓会だより第17号 P. 2
 - 25) 校名に「農業」を冠する学校が消える年にめぐりあわせて (2006. 2.16) 石川県学校農業クラブ連盟 耕人第35号 P. 5
 - 26) 学校から少しでもお願いします (2006. 3.17) 七尾東雲高校 PTA 新聞 七尾東雲だより第2号 P. 1
 - 27) 「七農魂」は心の中に生き続ける (2006. 3.31) 七尾農業高校 PTA 新聞 七農だより第36号 (終刊号) P. 1
 - 28) 最後の七農生は、有終の美を飾りました (2006. 2.28) 七尾農業高校母親委員会広報紙 たおやめ通信終刊号 P. 1
 - 29) 「農業」を冠する高校名が石川県から消える日 (2006. 3.31) 石川県高教研農業部会 平成17年度研究集録 P. 5
 - 30) 記念誌の刊行にあたって (2006. 3. 4) 石川県立七尾農業高校閉校記念誌 七農全史 P. 1～2
 - 31) チャンスの神様 (2006. 3.24) 七尾東雲高校生徒会誌 東雲第2号 P. 4～5
 - 32) 生徒会誌「緑陰」の終刊号に寄せて (2006. 3. 4) 七尾農業高校生徒会誌 緑陰第54号 (終刊号) P. 4
 - 33) 校訓“三道三立”及びスクールカラーの制定 (2006.12.22) 七尾東雲だより第5号 P. 1
 - 34) 時は今！今年は勝負の年 (2006. 7) 七尾東雲だより第4号 P. 1
 - 35) 草創期を過ごした諸君なればこそ、なお有為の人材たれ (2007. 3. 2) 七尾東雲だより第6号 P. 1
 - 36) 農業関係系列を選択した総合学科第1期生の進路 (2007. 3.31) 石川県高教研農業部会 平成18年度研究集録 P. 1
 - 37) 卒業研究集録の創刊に寄せて (2007. 3) 七尾東雲高等学校 平成18年度卒業研究集録 P. 1
 - 38) 有難う、一期生諸君 (2007. 3. 2) 七尾東雲高校生徒会誌 東雲第3号 P. 4～5
 - 39) 工業科課題研究概要集の創刊に寄せて (2007. 2) 平成18年度七尾東雲高校工業科課題研究概要集 P. 1
 - 40) 運命は努力する者を決して裏切らない (2007. 7.20) 金沢伏見高校 PTA 広報誌 THE FUSHIMI 第67号 P. 1
 - 41) かけがえのない時代を生きる諸君に望むこと (2007. 7.20) 金沢伏見高校新聞第26号 P. 1
 - 42) 飛躍に向かって、ただいま進行形 (2008. 3. 3) 金沢伏見高校同窓会報 白梅第18号 P. 1
 - 43) 「世相を象徴する一文字を教訓として (2008. 3. 3) 金沢伏見高校生徒会誌 いしずえ第34号 P. 10～11
 - 44) 「目から鱗」歴史小説への誘い (2008. 3) 金沢伏見高校図書館報 (平成19年度) P. 1
 - 45) 三段跳びで進路成果を実現するために (2008. 7.20) 金沢伏見高校 PTA 広報誌 THE FUSHIMI 第70号 P. 1
 - 46) 三段跳びの、始まりの終わり (2008. 7.18) 金沢伏見高校新聞第28号 P. 1
 - 47) 「今どきの若者も、とても魅力的です」 (2009. 3. 2) 金沢伏見高校生徒会誌 いしずえ第35号 P. 10～11
 - 48) 「源氏物語」千年紀のめぐりあわせ (2009. 3) 金沢伏見高校図書館報 (平成20年度) P. 1
 - 49) 「西高 is No. 1」が意味するもの (2009. 7.18) 金沢西高校 PTA だより第49号 P. 3
 - 50) 親のリトマス試験紙 (2010. 3. 3) 金沢西高校 PTA だより第50号 P. 7
 - 51) 本物に優る教育なし (2010. 3.12) 石川県高等学校長協会報第231号 P. 1
 - 52) 学校図書館の情報交換 (2010. 3) 石川県高等学校図書館協議会司書部会報第34号 P. 1

- 53) 「稔るほど頭を垂れる稲穂かな (2010. 3. 1)
金沢西高校生徒会誌 月桂樹第36号 P. 2
～ 3
- 54) 「西高ルネッサンス」をめざして(2010. 7. 15)
金沢西高校 PTA だより第51号 P. 3
- 55) 子どもの時代の読書の効用 (2010. 9. 24)
石川県学校図書館協議会 学校図書館だより
第82号 P. 1
- 56) 私の教員人生抄録 (2011. 3. 31) 石川県高
等学校長協会誌 (平成23年度46号) P. 17
～18
- 57) 学校図書館研究大会河北大会への参加 (2011.
3. 31) 石川県高等学校図書館協議会司書部
会報第35号 P. 1
- 58) 「西高ルネッサンス」の始まり (2011. 3. 1)
金沢西高校生徒会誌 月桂樹第37号 P. 2
～ 3
- 59) いしかわ師範塾では既に実現～人材育成の
SDGs～ いしかわ師範塾「会報第5号5周
年記念号」(2018. 3)

研究発表

- 1) 特色ある学校づくりをめざして (2004. 8)
石川県高等学校長協会研究協議会
- 2) 新しいタイプの高校の発足と開校初年度の取
り組み (2004. 10) 北信越地区高等学校長
会研究協議会
- 3) 金沢西高校の家庭科教育の現状と課題
(2009. 7) 平成21年度北信越家庭科校長会
研究協議会

講演

- 1) 七尾東雲高校がめざす教育 (2004. 9. 28)
七尾ロータリークラブ9月例会講話
- 2) 七尾東雲高校創立後3年をかけた教育活動の
成果 (2007. 4. 17) 七尾ロータリークラブ
4月例会講話

